

# システム部門との連携で 迅速な情報の共有を図る

安全な医療の提供は、医療機関にとってもっとも重要な課題の一つだ。三菱化学病院では、IT化の一環として独自開発のプログラムを使い、インシデントレポートの電子化を図ってきた。しかし、データの集計や蓄積されたデータの分析など、これまでのプログラムではカバーしきれないところもあり、富士通ソフトウェアテクノロジーズのリスクマネジメントシステム「SafeProducer」を導入。システム部門との連携で迅速な情報の共有を実現している。



**馬場 利恵子氏**

三菱化学病院 看護部長  
ゼネラルリスクマネージャー



**吉本 康平氏**

三菱化学病院 事務部 システム担当

## 独自開発のプログラムで IT化を推進

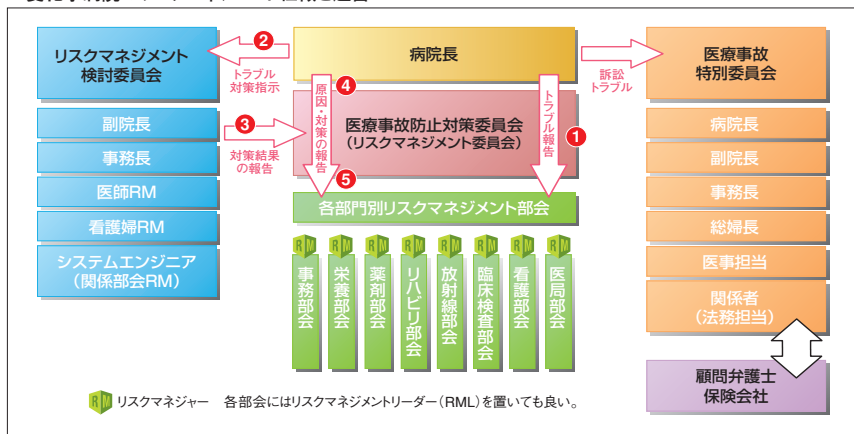
三菱化学病院は、従業員やその家族の福利厚生を図るために、昭和21年3月に企業所立病院として設立された。その後、昭和53年6月には地域住民へ一般開放され、急性期医療を担う中核病院として地域医療に貢献している。現在では、従業員よりも周辺地域の患者数が圧倒的に多く、患者の約80%は地域住民、地域の診療所などからの紹介率は30%以上に上るといふ。

同院の特徴の一つは、院内のイントラネットを活用し、各種業務の電子化に積極的に取り組んできたこと。しかも、そのほとんどが独自開発のプログラムで実現されている。オーダーリングに関しても同様、機能性・効率性を考慮し、院内で協議の上、プログラムに反映させ、平成13年にはシステムとして完成。平成14年には、インシデントレポートシ

テム、さらに看護支援システムも稼働を開始している。これは、出発点である企業所立病院という特徴を活かし、企業のシステム部門と連携しながらIT化を進められたという点が大きいという。

病床数93という病院の規模もあり、インシデントレポートは月に約30件弱。当初は独自開発のプログラムでも十分に機能していたという。しかし、毎月のデータが蓄積されてくると、年間を通しての集計や統計など、各種分析結果をデータで示す必要も生じてくる。このような集計・分析機能に関しては、残念ながらこれまでのプログラムでは十分カバーできなかったようだ。そこで同院では、平成16年8月に富士通プライムソフトウェアテクノロジ(現・富士通ソフトウェアテクノロジーズ)のリスクマネジメントシステム「SafeProducer」を導入し、インシデントレポートシステムの大幅な強化を行った。

三菱化学病院のリスクマネジメント組織と運営



## 「SafeProducer」の導入で データの二次加工も可能に

同院が安全管理に本格的に取り組みきっかけとなったのは、他病院で発生した医療ミスのニュースだったという。これを機に、医療事故防止対策委員会を設置。トラブルを報告し、院内の情報共有を図る仕組みが作られることになる。とはいえ、当時は紙ベースでの運用。報告は看護部からのものがほとんどで、「以後、気をつけます」といった当

事者の反省で終わってしまい、情報共有という面で十分に機能しているとは言えなかったようだ。

報告されたトラブルを職員全体の情報として共有し、その情報を活かして安全管理を推進していくためにはどうすればいいか。そのための組織として、平成14年にリスクマネジメント検討委員会が設置された。これは、副院長や事務長、医師、看護師、システム担当者など、各部門の主要メンバーが参加して、全症例の検討や迅速な対応策の策定などを行うための機関だ。

さらに、平成14年には院内LANを使った独自開発のインシデントレポートシステムも稼働を開始。電子化により、迅速な情報の共有が可能になった。「紙の場合は報告書として残るので、当事者のサインなど個人に結び付く部分があり、どうしても重くなってしまう。しかし、電子化されると一つの情報として扱われるので、個人はほとんど気にならなくなります」と電子化のメリットについて、ゼネラルリスクマネージャーでもある看護部長の馬場利恵子氏は語っている。

ただし、このインシデントレポートシステムには、いくつかの弱点があったという。まず第一は、文字入力が多く、入力に手間がかかること。また、ほとんどの情報を文字で入力させるために、必須情報の入力モレなどもあったという。そして最大の問題が、データの集計や統計的な処理ができなかった点にある。これらの弱点をカバーでき、より安全管理に役立つシステムとして強化するため

に、平成16年8月に「SafeProducer」の導入を行ったのである。

馬場氏は、「入力の容易さやデータの二次加工が可能というだけでなく、全職員に見せてよい情報とそうでない情報を、切り分けて管理できるという点を、『SafeProducer』を採用した大きな理由の一つです」と語っている。

### システム部門との連携で全職員での迅速な情報共有が実現

実際の運用に当たっては、第1報を所属長がチェックして、第2報として報告している。「最近では、0レベルのヒヤリ・ハット事例や、その他の項目でのちよとした報告なども増えてきています。また、当初は看護部からの報告がほとんどだったのですが、徐々にドクターからの報告も増えてきました」（馬場氏）。病院全体のシステムとして、リスクマネジメントシステムが機能してきたということだろう。

同院の安全管理の基本的な考え方は、「何が起き、どういう対策が講じられたかを、全職員が情報として共有すべきである」というもの。そのため、毎月1回開かれるリスクマネジメント検討委員会では、その月に起こったすべての症例を検討し、必要な対策を策定するのだという。そして当然だが、これらの情



三菱化学病院  
北九州市八幡西区東王子町13-1

■ 設立: 1946年(昭和21年)  
■ 診療科目: 6診療科 ■ 職員数: 約126名  
■ 病床数: 93床  
■ 診療時間: 8:30~12:00、14:00~16:50(平日)  
8:30~11:00(土曜日)  
■ 休診日: 日曜日、祝日

報を迅速に公開し、全職員で共有する必要がある。このデータを一覧表で見たいという要望は強く、同院ではそのための独自のプログラムを利用している。「『SafeProducer』からデータをExcelに落とし、データベース化して独自のプログラムで一覧表示できるようにしています」と語るのは、事務部システム担当の吉本康平氏である。この作業については随時手作業で行っているのだが、システム部門との連携によって、迅速な院内の情報共有が図られているのである。

馬場氏は、「月別のトレンドの推移や時間帯別の集計など、実際の安全管理に役立つデータ分析を行ってほしい」と、今後のシステム活用について語っている。蓄積されたデータをいかに有効に活用するか、三菱化学病院のリスクマネジメントシステムはさらに成長していくに違いない。

### 機能強化された「SafeProducer V2」が登場!

最新バージョン「SafeProducer V2」は、ご利用中の病院様からいただいた多くのご意見を元に、多様なデータ集計・分析機能を搭載するなど、さまざまな機能強化を図りました。また、医療安全活動の場で注目されている「PDCAサイクル」のサポート機能を追加し、院内スタッフ全員が「安全」への意識を共有できる「医療安全コミュニケーションサイト」としての環境を提供いたします。

「SafeProducer」に関するお問い合わせはこちら

株式会社富士通ソフトウェアテクノロジーズ  
インターネットで製品情報がご覧になれます。 <http://jp.fujitsu.com/fst/>  
TEL: 0120-052-070

FUJITSU

THE POSSIBILITIES ARE INFINITE